

\お届けします!/\



新UD出前講座 プログラムのご紹介

経緯

- ・江東区では、区民と区の協働によるワークショップでユニバーサルデザイン（以下「UD」と言う）について取り組んでおり、その中のひとつのテーマとして「子どもと一緒にUDを考える」があります。
- ・2009年度のワークショップでは子ども向けの「冊子・DVD」を作成し、翌年にはそれらを活用した「小学校UD出前講座」がスタートしました。現在まで10年以上継続した活動で、年々希望する学校が増え2020年度は20校で実施しました。

目的

- ・これまでのプログラムは、まちには様々な人がいることを伝えながら、多様な人への理解を深め、小学生でもできることを楽しく体験しながら学ぶ内容です。
- ・近年、「心のバリアフリー」や「共生社会」への取り組みが重視されており、その考え方の基本となる「尊厳」や「障害の社会モデル※」に焦点をあてたプログラムをつくりました。

※障害の社会モデル | 今まで「障害」は主に本人の側に要因があると捉えられていたのですが、現在では社会の側にも要因があるという捉え方によって変わってきています。「障害」とは《本人の側の要因》と《社会の側の要因》の相互作用によって生じます。つまり「障害」をなくすためには、《社会の側》も変わらなければならないのです。

概要

- ・小学生4年生以上
- ・90分
- ・プログラムは2種類
 - A 絵本読み聞かせ + 寸劇やロールプレイ
 - B サイン板を題材にUDを考えるワークショップ
- ・伝える人（スタッフ）
江東区やさしいまちづくり相談員（多様な特徴の人がいます）

江東区ユニバーサルデザイン 出前講座案

90分

A プログラム 絵本読み聞かせ + 寸劇、ロールプレイ

ねらい

「自分の当たり前」と「みんなの当たり前」が違うことがあるということ、絵本や寸劇というわかりやすい方法で伝え、「尊厳」や「障害の社会モデル」について考えます。

①あいさつ (5分)

Q 「ユニバーサルデザイン」を知っていますか？

だれもが暮らしやすいようにモノやまちをつくったり、しくみやサービスを考えたりすることです。

Q 「だれも」には、どんな人がいる？

いろいろな人がいます（きみたち小学生もその中のひとり）。

< 「自分の当たり前」と「みんなの当たり前」が違うかも！ >

自分の「当たり前」と思っていることと、みんなの「当たり前」と思っていることは違うかもしれない。そのことを考えてもらうために、絵本を読みます。

②絵本読み聞かせと感想 (30分) 【絵本『みえるとかみえないとか』ヨシタケシンスケ作 アリス出版】

Q 絵本を読んだ感想を聞く

自分の当たり前とみんなの当たり前が違うことがあります。これはユニバーサルデザイン=いろいろな人の「暮らしやすさ」を考える上で、とても大切な視点です。

絵本を聞いて感じたことを話しあい、自分の身の回りでも同じようなことがないかを考えてみます。

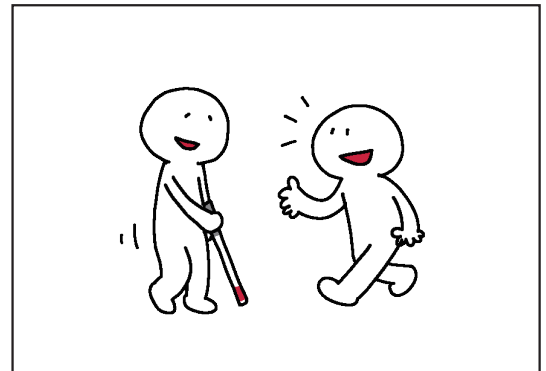
③寸劇を見ながら考えよう！ ロールプレイで考えよう！

いくつかの寸劇とロールプレイを用意し、その中から2つを選んで実施します。(2×20分=40分)

※ 2022年4月時点では、寸劇4つ、ロールプレイ1つがあります。

寸劇①「困っているのかな…」

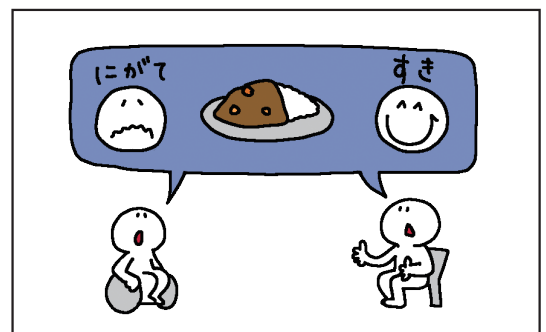
駅に向かって歩いていたら白杖を持って歩いている人を見かけ、ある人が「駅まで一緒に行きましょうか」と声をかけることから始まります。その後、いくつかの違ったシーンが展開されます。それぞれのシーンで、声をかけられた人と声をかけた人の気持ちを聞きながら、見えない人や声をかけた人にとっての「当たり前」が違ったことに気づき、どうしたら良いかを考えます。



寸劇②「子どもはカレーが好き！じゃないこともある + 何して遊ぶ？」

地域のイベントで子どもたちに食事を出そうと、大人のスタッフたちがメニューを考えています。ある人がカレーが苦手な子もいることに気づきます。その場合、どのような対応があるかを考えます。

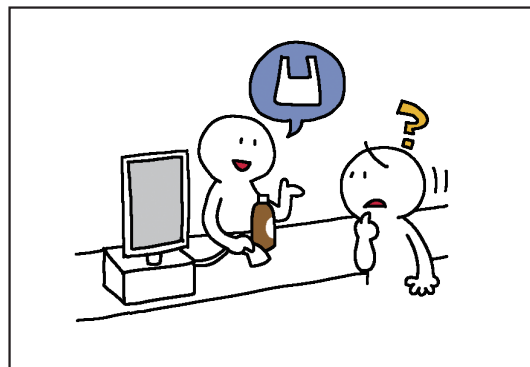
続いてイベント会場で、子どもたちが遊びはじめました。「鬼ごっこやろう」の提案に、「早く走れないから、やだ」と言う子がいます。各々の「当たり前」を理解し、みんなですごすにはどうしたらいいかを考えます。



寸劇③ コミュニケーションのいろいろ

コンビニエンスストアのレジで店員さんから「レジ袋要りますか?」と聞かれて、戸惑っている人がいます。最初は店員さんも戸惑っていましたが、工夫して伝えることができました。

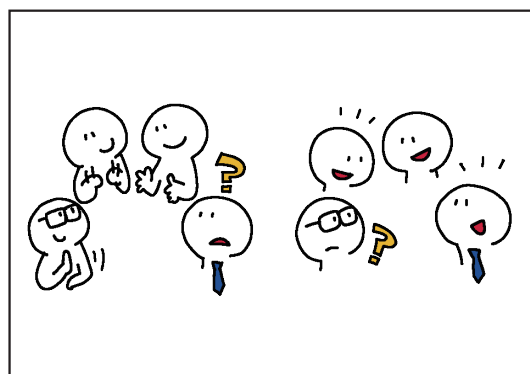
コミュニケーションは、一方の問題ではなくお互いが伝えあおうとすることが大切です。各々の「当たり前」に気づき、お互いにできる工夫を考えます。



寸劇④ 同じ話をしているけれど…

「今日のランチはどのお店に行く?」という相談をしているグループがあります。そのうちの1人は、どうやら話の内容についていけないようです。別の日、メンバーが何人か入れ替わり、同じくランチの相談をしています。今度は前回とは別の人が話についていけないようです。

2つのシーンを比べることで、「当たり前」は環境によって変化することをわかりやすく伝えます。



寸劇は、子どもに質問をして答えてもらったり、感想を聞きながら進めます。

寸劇を見てもらった後は、寸劇に関連した体験をしてもらう時間を設けます。

ロールプレイ 電車やバスの席で

電車やバスの席で起きる出来事を、ロールプレイを通して考えます。

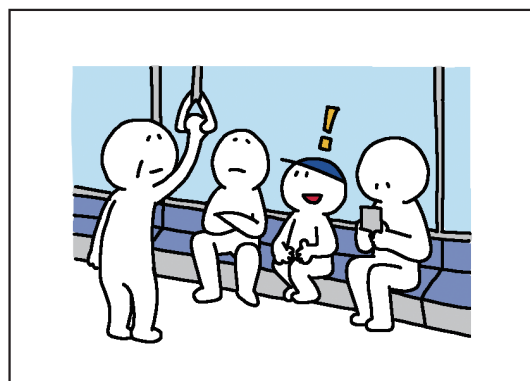
● ロールプレイとは

登場人物の役になって、その人だったらどう考えるか、どう行動するかを考え、実際に言ったり動いたりする学習方法です。

状況 1 座っている小学生の前におじさんが立った

状況 2 具合が悪いので座っていたら、混んできた

それぞれの立場になって、考えたことを出しあいます。



④まとめ (15分)

B プログラム UD サイン板づくりワークショップ

ねらい

「サイン板」を題材に、自分にとって、友だちにとって、多様な立場の人にとってのわかりやすさを知り考えることを通じて、「障害の社会モデル」について学びます。

①あいさつ (5分)

②UDのお話 (10分)

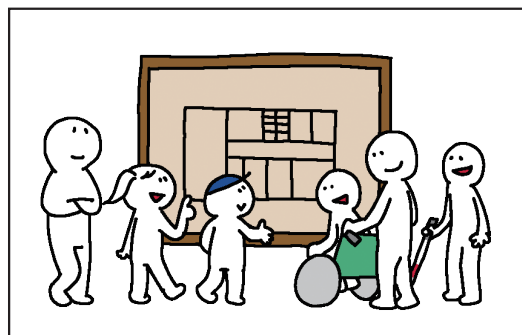
Q 多様な立場の人には、どんな人がいるかな？

③「わかりやすいサイン板を考える」(40分)

グループに分かれます。相談員もグループに入ります。

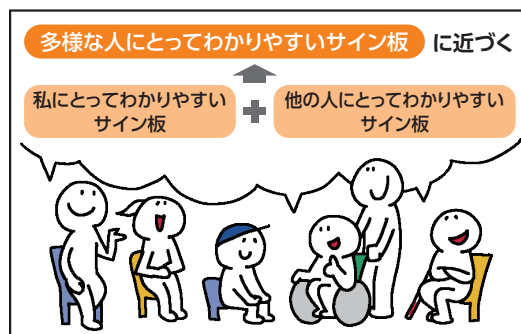
●案1

- ・「図書館に行って本を借りて帰ってくる」「体育館に行ってボールに触って帰ってくる」などのミッションカードを渡します。
- ・子どもと相談員と一緒に校内を移動しながら、何を目印にして行動しているかを教えてもらいます。子どもにとってわかりやすいものが相談員にとってもわかりやすいかなど、意見交換します。



●案2

- ・「あなたにとってわかりやすいサイン板は？」を考えた後、グループにいる子ども全員にとって「わかりやすいサイン板」について話しあいます。
- ・ワーク後半、相談員が「自分にとってのわかりやすさ」を伝えて、他者の視点を取り入れます。



④発表と意見交換 (20分)

各グループで考えたことを発表します。

⑤わかりやすさのお話 (10分)

「わかりにくい、わかりやすいってどういうこと？」を、サイン板などの写真を紹介しながら伝えます。

例えば、

- 高さ、明るさの違いによるわかりやすさ
- コントラストの違いによるわかりやすさ
- 様々な見え方があること
- 外国語・ルビなどの表記があると、わかる人が増えること
- 絵文字で表記するとわかる人が増えること

留意点1：正解として紹介するのではなく、あくまでも例として示す。

留意点2：自分たちでも調べてみよう、自分たちでも色々なサイン板を探してみよう、そしてわかりやすいか考えてみようなど、積極的な行動を促す。

⑥まとめ (5分)